



このコーナーでは、奥州市民活動支援センターの業務を受託しているNPO法人夢追座が市内で活動する団体を紹介していきます。



年々盛り上がりを見せる「わっか市」

思いをカタチに 地域づくりの輪

ゆめ おい ざ NPO法人夢追座

自 分たちの暮らす地域は自分たちで盛り上げよう——。このフレーズをコンセプトに市内でイベントを企画、運営しているのが「NPO法人夢追座」です。平成23年12月に設立し、24年9月に法人格を取得しました。若者が自ら考え、活躍できるステージを創出し、追い掛けていく・・・そんな思いを込め夢追座と名付けました。

若者が集うイベントを これまで、えさし藤原の郷を会場にした「大人」だって「鬼ごっこ」や、男女の出会いの場を提供する「夢コン」など、趣向を凝らしたイベントで地域を活性化させるために、さまざまな形で取り組んできました。

その中でも、ここ数年恒例となっているのが「わっか市」です。クラフトアート、農産物を作っている市内の若者たちが集まり、出店者とお客さんとの輪、出店者同士の輪をつくるきっかけとなることを目的としたイベントです。会場の装飾などは全てスタッフの手作りで、そのアットホームな雰囲気も好評を得て、市内外から約800人が来場するイベントへと成長しています。

誇れる奥州市に

これまで開催したイベントでは、参加者やお客さんから「また参加したい」という声が多数寄せられました。こうした声が私たちの喜びと原動力になり、次のイベントへと

つながっています。今後も魅力あるイベントを開催していくとともに、若者たちが交流を通して高め合い、学び合い、認め合いながら、交流の輪を広げていくことをサポートしていきます。地元がすてきな居場所となり、より奥州市を誇れるようなきっかけ作りをしていきたいと考えています。

現法人設立後、さまざまな団体や企業と連携して、若者による地域活性化や若者の社会参画を促進する取り組みを行ってきました。これから、交流の幅をさらに広げ、市の地域活性化に貢献したいと思っています。ことから、市民活動支援センター業務の募集に応募し受託者として選定されました。



市民活動支援センター
Facebook
QRコード

市民活動支援センター 協働のまちづくりのさらなる推進に向け、奥州市民活動支援センターをリニューアルしました。現在市内の約250団体が登録しています。まずは、お互いの活動内容を知るきっかけをつくり、連携の機能や役割を皆さんに分かりやすく伝えるなどして、まちづくりをお手伝いしてまいります。「自分たちの暮らす地域は自分たちで盛り上げよう」という夢追座のコンセプトを忘れず支援センターを運営していきます。

極的に各地域に出向き、多くの人の話をお聞きして、皆さんの活動を情報発信していきます。

<今月の表紙>

日高火防祭

日高火防祭が4月28日、29日の2日間、水沢の市街地で開催され、観光客など大勢の来場者でにぎわいました。300年以上の歴史を持つこの祭り。豪華絢爛な各町組によるやし屋台が、笛や太鼓、三味線の音色を響かせ、沿道に詰め掛けた観客を魅了しました。【関連記事：123-】



CONTENTS

- | | | | |
|----|--|----|------------------|
| 2 | キラリ輝く奥州人 | 15 | せいかつ百科 |
| 3 | 思いをカタチに 地域づくりの輪 | | 市長コラム「おうしゅう羅針盤」 |
| 4 | 一市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画を策定ー健康で安心して暮らせるまちづくりを目指すー | 16 | いいところ、知っとこ おうしゅう |
| 8 | 『春の叙勲』受章者の紹介 | 17 | まなびの里 |
| 9 | ILC希望のひかり | 18 | もっと安心 ずっとおうしゅう |
| 10 | 市民体育祭の参加者を募集します 5月30日困はみんなで体を動かそう | | はい、こちら総合相談室 |
| 11 | 北上川の洪水情報が緊急速報メールで配信されます | 19 | おうしゅう こそんぼ |
| 12 | 奥州の春まつり グラフ⑩ | | 姉妹都市 掛川だより |
| 14 | 街diary | 20 | インフォメーション |
| | | 24 | 奥州遺産 |

Public Relations Magazine Oshu City
2018.5 Vol.147
広報おうしゅう
平成30年5月号



55

キラリ輝く 奥州人

高橋 安子 さん (79歳)
＝前沢字山下＝

作品は自分自身 思いを絵画で残したい

自宅の一室にあるアトリエに、ほんのりと漂う絵の具の香り。絵画歴60年を超える安子さんは、今日も絵筆を取る。幼少の頃から絵を描き、高校では美術部に所属。就職後、絵画から遠ざかっていた時期もあったが、職場の仲間たちと絵画クラブを結成。これが契機となり、日本画家木村明央氏に師事、本格的に絵画の道に入る。これまで手掛けた作品は200点を超え、個展も開いてきた。

ボランティア活動も行ってきた安子さんは、亡夫の利雄



たかはし・やすこ◎昭和15年、前沢生まれ。一関二高を卒業後、日本通運に入社、52歳で退職。前沢ふれあいセンター日直員として17年間勤務、この間各種活動へ積極的に参加。コーヒー好き。

時間が空くと筆を取り、キャンパスと向き合う

さんと内モンゴル砂漠での植林活動に15年にわたって参加。現地で見えたものをキャンパスに描き、地元高校の文化祭に作品を出展、自身の思いを生徒たちに伝える。昨年、創立60周年となった前沢ユネスコ協会で、初の女性会長に就任した安子さん。「長年楽しく活動してきた。会員皆さんの協力をいただき、役に立てれば」と照れくさそうに笑う。

「今の自分があるのは夫のおかげ。絵画もボランティア活動も、できることは続けていきたい」と夢を描く。